

# 日本看護歴史学会

## 會報

日本看護歴史学会  
第38号  
2002年7月1日

「知る・考える・伝える」

看護史研究と教育の楽しさ

代表幹事 山本捷子

一九八七年猛暑の京都で看護史  
に関心を持ち、研究を進めていこ  
うという人達が集い、本学会が誕  
生してから早や十六年目。第六期  
幹事会も若手を加えたメンバーと  
なり、次なる発展への基礎作り  
にスタートした。

さて私が何故、歴史に関心をも  
ち続けているかについて考えてみ  
ると、とにかく過去を知りたいと  
いう欲求を満足させ、そこで知り  
得たこと、考えたことを今の看護  
教育に生かしたいからに他ならな  
い。また一九八八年第二回大会の  
寺崎昌男先生の講演で伺った「歴

史研究は足腰強く」と「博覧強記」  
のことが支えとなっている。

歴史とは過去に起こった出来事  
と、その記述を意味すると言われ  
るが、歴史を探る楽しみの第一は  
単にいつ、どこで何が起こったか  
というだけでなく、それはなぜ起  
こったか、その人は何故起こした  
かなどと、今の事情・事象への変  
化の経緯を知ることにある。  
五月の九州は、日本赤十字社の  
前身である博愛社創設と、その契  
機となった西南戦争関連の地を辿  
るにふさわしい所である。創設者  
佐野常民の生誕の佐賀、激戦の田

原坂、建白書を奏上した熊本・ジ  
ームズ邸記念館等々。

先人の遺した史跡探訪や史料涉  
猟には、未知なるものを発見する  
大きな喜びがある。そこでは生の  
史料が語る過去の空気、生きた  
人々の生活や思想や行為の原点に  
触れることができるからである。

ただし、後世の人々が先人を顕  
彰する為の記念館や故人の伝記は  
身びいきや美辞麗句に覆われてい  
たり、時には史実でない絵や彫刻  
や石碑記述をみることもある。科  
学的研究にとつては、眉に唾する  
用心さ、疑ってかかる冷徹さが、  
時には必要となる。

歴史探求の第二の楽しみは、と  
いうより苦しみに近いが、過去の  
出来事の変遷変化と周辺事情との  
因果関係を探り、そこにいわゆる  
「温故知新」、「過去からの学び」  
を見つけたすことである。

「過去を振り返る」歴史への関  
心は、自分（達）の歩みに対する  
不安の感情から生まれる」と読ん  
だことがある。自分の拠って立つ  
ところを確かなものにしたいたから  
である。私の看護史研究のきっかけ  
は「日赤看護婦は戦争加担者だ」  
という衝撃的な一言であった以来、  
日赤看護婦の歴史と明治以後の国  
民教育や社会思想、政治の動きと

を関連させて考え続けてきた。  
第三の楽しみ「伝える」という

教育に目を転じてみると、看護基  
礎教育カリキュラムから看護史の  
科目が消えてから久しい。

高校までの歴史教育の影響で、  
歴史とは年号や人名と地名を覚え  
ることだと思いつ込んでいたので、  
多くの学生は歴史が嫌いで、苦手  
意識が強い。ましてや現代史の戦  
後五十年余りは既に遠い過去でし  
かない。

しかし、限られた授業時間の  
中で、教師は如何に学生の興味をそ  
そり、面白く、歴史を伝えていく  
かが、歴史を知った者の楽しみだ  
と思う。

学生は看護や母校のルーツを知  
ることには強い関心を示す。ビジ  
ユアル時代に育つ現代学生には、  
教師の足腰で収穫した画像教材は  
興味をそそる。時には教師の若い  
時の姿を一枚は潜り込ませるのも  
一興だ。「電気紙芝居」に民謡や  
昔の歌も入れると、学生は居眠り  
をしない。

そういう歴史研究のα「過去の  
出来事を知る楽しみ」を伝え、Ω  
「現実への建設的批判」を呼び覚  
ますことで、若い後継者達の肯定  
的な反応を育てることを、私は看  
護史研究の楽しみとした。

# 日本看護歴史学会第十六回大会

つぎの要領で開催します。

## 大会テーマ

「日本と世界の歴史を探究する〜現代看護の源泉への探訪〜」

今年度は、大会テーマのサブタイトルを「現代看護の源泉への探訪」としました。これは、看護の先輩たちが、時代の趨勢の中に身をおいて情熱をかたむけて地道に活動をしてきたことが、現代の看護の基盤をなしていることを再確認し、めまぐるしく変わる社会の変動の中で、看護として今、何が基本的に必要なかを再考する機会にしたいと考えたからです。

**日時** 八月三十一日(土) 九時三十分〜一七時  
九月一日(日) 九時三十分〜一二時二十分

## 会場

山形県立保健医療大学  
山形市上柳二六〇番地  
山形交通バス 山形県立中央病院前下車 徒歩四分

## プログラム

一 特別講演1 講師 平尾真智子  
「ナイチンゲールの「看護覚書への情熱」―草稿から未発表の第4版までの改定を通して―」

二 特別講演2 講師 大石杉乃  
「第2次世界大戦後の看護改革推進者 オルトを語る」

## 山形県立保健医療大学案内図



## 交通アクセス

- J R 奥羽本線・仙山線で  
「羽前千歳駅」下車、徒歩約20分
- 奥羽本線で  
「南出羽駅」下車、徒歩約10分
- タクシー J R「山形駅」から約20分
- バス J R「山形駅」から約30分

## 三 研究発表

- ① 西南戦争激戦地における博愛社創設の過程  
山邊泰子・山崎雅代（九州看護福祉大学）
  - ② 宮城県の衛生組合の設立と活動について  
小山田信子（東北大学医療技術短期大学部）  
リンダ・リチャーズが京都看護婦学校ではじめた看護教育
  - ③ 岡山寧子（京都府立医科大学医学部看護学科）  
依田和美（大阪府立看護大学医療技術短期大学部）  
竹内京子（大阪府立看護大学）
  - ④ 明治期から第二次世界大戦前の埼玉県における看護教育の発展過程  
仲島愛子（山形大学大学院医学系研究科看護学専攻）  
高橋みや子（山形大学医学部看護学科）
  - ⑤ 沖縄における“Operation Florence Nightingale”の実施計画について  
仲里幸子・大嶺千枝子（沖縄県立看護大学）
  - ⑥ 第二次世界大戦後のGHQの指令による山形県における病院改革の過程  
片桐智子・平塚朝子（山形県立保健医療大学看護学科）  
高橋みや子（山形大学医学部看護学科）
  - ⑦ 第二次世界大戦後の済生館における看護教育の歴史―甲種看護婦養成所の設立までの経緯―  
鈴木由美子・大沼優子（山形市立病院済生館高等看護学院）
  - ⑧ 高等学校衛生看護科の成立過程その①―神奈川県二俣川高校を中心に―  
村田三加幸・武田洋子（山形大学大学院医学系研究科看護学専攻）  
吉谷須磨子（山形大学医学部看護学科）
- 四 特別ポスターセッション 講師 高田みつ子  
「ナイチンゲールの看護を訪ねて」

## 五 分科会

- ・ポスター発表を囲んで
- ・研究発表者を囲んで

六 第一七回大会会長 挨拶 ライダー島崎玲子

\*両日共、先輩たちの活動の様子並びに看護用品を展示します。

## 懇親会

第一日目終了後、夕食会を兼ねて行います。

大会参加費 四千元

懇親会費 二千元

当日の申し込みも受け付けますが、できるだけ事前に同封の郵便振込み用紙でお振込みいただくようお願いいたします。

\*年会費の送付先と異なりますのでご注意ください。

締切 八月十五日迄

## 幹事会

八月三十日（金）一六時～一九時

山形大学地域共同研究センター霞城サテライトにおいて行います。

## 第一六回大会 開催事務局

山形大学医学部看護学科 高橋みや子

〒九九〇―九五八五 山形市飯田西二―二二

電話 〇二三―六二八―五三六二

FAX 〇二三―六二八―五四六四

